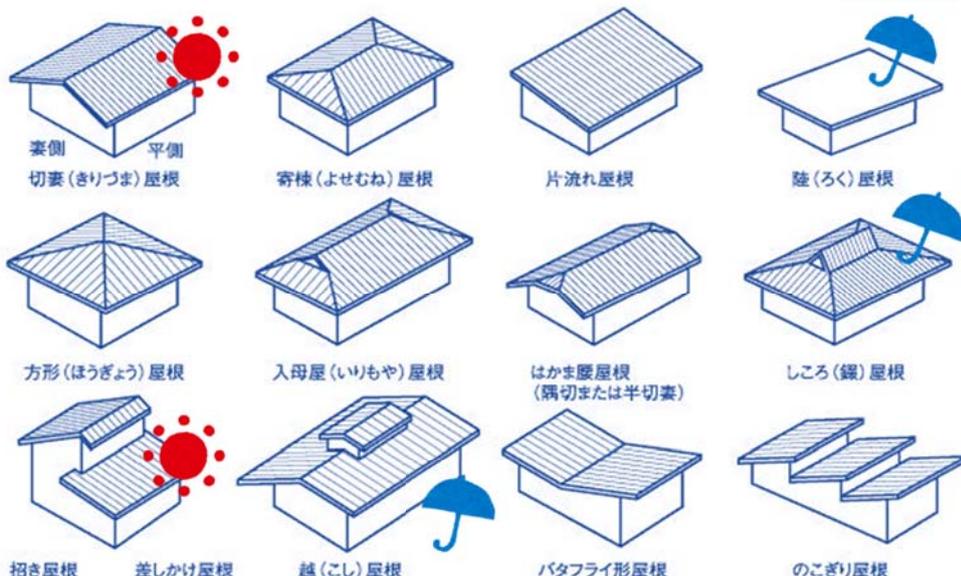


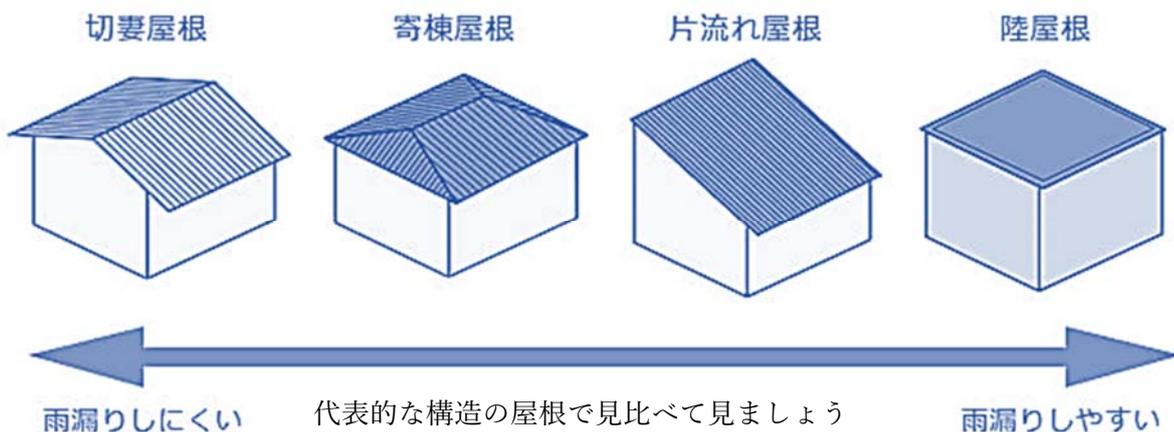


屋根の形状によって、雨漏りの起こりやすさが変わることをご存知でしたでしょうか？どんなに正確に施工していても、経年劣化により、屋根に雨の通り道ができてしまうことがあります。その通り道ができる場所は、屋根材のつなぎ目の部分であったり、必ず雨がたう場所であることが多いです。つなぎ目が少ない、または構造が複雑ではない、軒が長い、水が溜まりにくい構造である…等が雨漏りを起こさない為には重要なのです。



※施工の仕方や、様々な要因の組み合わせにより雨漏りのしやすさは、一概にはあわせません。ここに述べた以外の要因も考えられる為、ご心配をお持ちの方は、正式な劣化調査等の診断を受けられることをお勧め致します。

あなたの家の屋根はどんな形ですか？



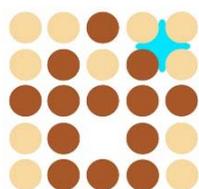
切妻屋根: 屋根の種類としては最もオーソドックスなもので、構造が非常に単純なのでスキが無く最も雨漏りしにくい屋根だと言われています。複雑な屋根に比べるとメンテナンスも安価で、コスト面含めても優れたバランスを持つ理想的な屋根です。雨漏りがするとすれば大棟という最も高い棟部分が原因となっている可能性があります。原因究明しやすいという点でも優れていると言えます。

寄棟屋根: 切妻と同じくオーソドックスでよく見かける屋根かと思われ。寄棟屋根のメリットは軒が4方向に向いているため、外壁を全方向覆い雨水から守ることが出来るというところです。しかし、「かき合い」というY字型になっている部分から雨漏りが発生する可能性があるため、定期的なメンテナンスが必要です。

片流れ屋根: 片流れ屋根は最近増えてきた屋根です。オシャレでモダンな形状ですが、雨を受ける面が一方に傾いているため一方の雨樋に雨水が偏ってしまい、負担がかかることが難点です。またデザイン性を重視したものは傾きが高い方の軒がほとんど無いことが多く、外壁が雨によるダメージを受けやすくなっています。

陸屋根: 「ろくやね」または「りくやね」と言い、ほぼ平らな屋根になります。こちらも近年になって増えてきた形状ですが、屋根に傾斜がなく軒もほとんどない状態なので、外壁が雨水にさらされてしまいます。外壁に染み込んだ雨が原因の雨漏りが非常に多い形で、あまりおすすめできません。

house plus+ は、住宅の耐震診断・劣化調査・適合証明書発行など、住宅の現状を調査させて頂いております。家の外周と部屋内、小屋裏、床下に侵入し調査をさせて頂いております。雨漏りを含め、家には定期的なメンテナンスが必要です。是非、現況を調査し本当に修理が必要な箇所を把握され納得のリフォームをして頂ければと思います。



house plus+
株式会社光栄建設

0942-27-6202

〒839-0851 久留米市御井町 1736-1

ハウスプラス 久留米 検索

